

J Aバンク千葉における地域密着型金融の取組状況（平成 29 年度）

J Aバンク千葉（千葉県下 J Aと農林中央金庫千葉支店）では、農業と地域社会に貢献するため、平成 28～30 年度 J Aバンク千葉中期戦略に基づき地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

平成 29 年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。

1 農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

J Aバンク千葉は、地域における農業者との結び付きを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

(1) 農業融資商品の適切な提供・開発

J Aバンク千葉は、各種プロパー農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

平成 30 年 3 月末時点の J Aバンク千葉の農業関係資金^(注1)残高は 19,904 百万円、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は 3,569 百万円を取扱っています。

(注)

- 1 農業関係資金とは、農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。
- 2 J Aバンク千葉が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。

【営農類型別農業資金残高】 単位 百万円

	平成 30 年 3 月末現在
農業	16,615
穀作	3,338
野菜・園芸	6,622
果樹・樹園農業	662
工芸作物	52
養豚・肉牛・酪農	1,372
養鶏・鶏卵	72
養蚕	0
その他農業（注 1）	4,497
農業関連団体等（注 2）	3,289
合計	19,904

(注)

- 1 「その他農業」には、複合経営で業種が明確に位置づけられない者および農業サービス業が含まれています。
- 2 「農業関連団体等」には、J Aや全農（経済連）とその子会社等が含まれています。なお、本残高には、信用事業を行う系統団体に対する日銀成長基盤強化資金等の制度資金の原資資金が含まれています。

【資金種別別農業資金残高】

単位 百万円

種 類	平成30年3月末現在
プロパー農業資金（注1）	14,515
農業制度資金（注2）	5,389
農業近代化資金	4,591
その他制度資金（注3）	798
合 計	19,904

（注）

- 1 「プロパー農業資金」とは、JAバンク原資の資金を融資しているものをいいます。なお、プロパー農業資金には、信用事業を行う系統団体に対する日銀成長基盤強化資金等の原資資金が含まれております。
- 2 「農業制度資金」は、①地方公共団体もしくは日本政策金融公庫の資金をJAバンク千葉が転貸で融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンク千葉が低利で融資するものを対象としています。
- 3 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金（スーパーS資金）や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】

単位 百万円

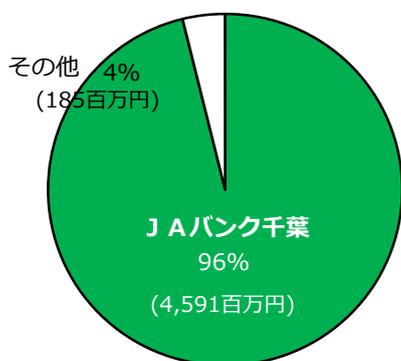
種 類	平成30年3月末現在
日本政策金融公庫資金	3,569
そ の 他	—
合 計	3,569

（注）JAバンク千葉では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金の受託貸付金を取り扱っています。

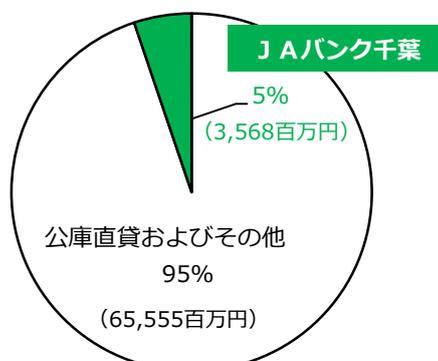
JAバンク千葉は主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金（公庫直貸除く）の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

【千葉農業近代化資金および公庫農業資金の取扱いシェア】

農業近代化資金 融資残高シェア
（平成30年3月末時点）



日本政策金融公庫 農業資金取扱いシェア
（平成30年3月末時点）



(2) 担い手のニーズに応えるための取組み

J Aバンク千葉では、地域の農業者のニーズに応えるため、様々な取組みを行っています。

J Aでは、本支店の農業融資担当者が営農・経済部門等と連携しながら、農業融資に関する資金提案や経営相談対応等を実施しています。これを支える体制として、豊富な農業金融知識をもった農業融資の実務リーダーである「担い手金融リーダー」を、平成 29 年度末時点で 19 J A・83 名配置しています。

また、J A系統独自の農業融資資格制度「J Aバンク農業金融プランナー」を導入しており、有資格者は平成 29 年度末時点で県内に 199 名誕生しています。農業融資の実務に即した資格の取得を通じ、農業金融に関する知識・ノウハウの一層の充実を図り、多様化・専門化する農業者の金融ニーズに応えていくことを目的としています。

農林中央金庫千葉支店では、J Aのサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築しており、これらの機能の拡充、強化に努めています。

これらのほか、J Aグループ千葉では、千葉県、(公社)千葉県園芸協会、(一社)千葉県農業会議と一体となって「農業者総合支援センター」を構築しており、担い手に対して、オール千葉による総合的なサポートをワンフロア・ワンストップで行っております。

(3) J A内事業間連携の強化

農業者の多様なニーズに J Aをあげて応えていくため、営農・経済事業等との合同会議・研修会の開催や農業者への同行訪問等により、これまで以上に、J A内事業間連携を強化しています。

(4) 農業メインバンク C S 調査の実施と結果の活用

J Aバンクでは、J Aの農業融資に対する率直なご意見・ご感想をお伺いすることを目的として、お客様満足度の計測（農業メインバンク C S 調査）を行っています。

得られた結果を活用しながら、農業者の声により応えることが出来るよう、農業メインバンク機能の一層の強化に取り組んでいます。

2 担い手の経営のライフステージに応じた支援

J Aバンク千葉は、担い手をサポートするため、ライフステージに応じて、次の取組みを行っています。

(1) 次世代農業者の育成支援

J Aバンク千葉では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、青年等就農資金等を取り扱っています。

【新規就農者をサポートする資金の取扱い実績】

単位 件、百万円

	平成 29 年度 実行件数	平成 29 年度 実行金額	平成 30 年 3 月末 残 高
青年等就農資金	18	142	198
就農支援資金	—	—	166
JA新規就農応援資金	1	1	0
その他	0	0	0
合計	19	143	364

(2) 農商工連携の推進

J Aバンク千葉は、農林水産業の事業力・収益力強化のため、商談会・ビジネスマッチングによる販路拡大支援等の農商工連携に取り組んでおり、「農業者と産業界の架け橋」として多様な機能を発揮しています。

【平成 29 年度 商談会等開催状況】

商談会名	開催日	主催者	参加団体数	総来場者数	内容
J Aバンク千葉 商談会	平成 30 年 2 月 21 日	農林中央金庫 千葉支店	48 団体	81 名	セラーとして県内の農業法人・生産者を、バイヤーとして県内外のホテル・百貨店等をお招きし、交流・商談の場を設営しました。

(3) 農業法人とのネットワーク拡大

J Aバンク千葉では、地域農業の有力な担い手である農業法人の皆様とのネットワーク拡大、関係強化に取り組んでおります。

農業法人への訪問活動やセミナーの開催を通じて、情報提供や関係性構築を図っています。

【平成 29 年度 セミナー開催状況】

講演会名	開催日	参加団体数	内容
J Aバンク千葉 農業セミナー	平成 30 年 2 月 21 日	36 団体	「消費者が求める農畜産物とは」～データでわかる販売チャネルの変化～ 講師：オイシックス・ラ・大地株式会社 戦略調達セクションリーダー 阪下利久氏

(4) 被災者等への支援

J Aバンク千葉では、平成 29 年台風 21 号および 22 号による被災者を支援するため、災害対策窓口を設置したほか、災害対策資金の創設や個別融資先の経営状況に応じた償還条件の緩和等に対応しました。

単位 件、百万円

取組事例	J A名	内容	件数	貸付実行金額
台風 21 号・22 号被害 関連資金	J A安房 J Aきみつ J A長生 J A山武郡市 J A千葉みらい J Aかとり J Aちばみどり	台風で農畜産物の被害を受けた組合員に対し、農林中央金庫および行政の利子補給を受けた低利の資金を対応しました。	172	304
農業生産資材購入に かかる特別支援	J Aちばみどり	J Aちばみどりでは、農業生産基盤および組合員の農業経営の維持と安定を図るため、農業生産コストの負担軽減を目的として低利資金を対応しました。	24	48

(5) 経営不振農家の経営改善支援

J Aバンク千葉では、負債整理資金の対応等にあたり再生計画の策定支援や経営指導など、農業者の経営改善支援に取り組んでいます。

【平成 29 年度 農業者の経営改善支援等の取組み実績】

(単位：先)

		期初経営改善支援取組先 A	Aのうち再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率 = a / A	ランクアップ率 = b / A
正常先①		0	0	—	0	0.0%	—
要注意先	うち その他要注意先②	9	0	0	9	0.0%	0.0%
	うち 要管理先③	0	0	0	0	0.0%	0.0%
破綻懸念先④		2	1	0	2	50.0%	0.0%
実質破綻先⑤		1	0	0	1	0.0%	0.0%
破綻先⑥		0	0	0	0	0.0%	0.0%
小計 (②～⑥の計)		12	1	0	12	8.3%	0.0%
合計		12	1	0	12	8.3%	0.0%

(注) 期初経営改善支援取組先および債務者区分は平成 30 年 3 月末時点のものです。

3 経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の徹底

J Aバンク千葉では、担い手の経営実態やニーズに適した資金の提供に努めています。

(1) 資本供与の取組み（ファンドの活用）

J Aバンク千葉では、農業振興や環境に貢献する取組みを行う企業に投資し、その成長を支援しています。

(2) 6次産業化の支援

J Aバンク千葉では、担い手の所得向上を支援するために、生産と販売のマッチング機能強化や、需要拡大が見込める分野の事業展開支援、いわゆる6次産業化促進支援を行っています。

(3) 負債整理資金による経営支援

J Aバンク千葉では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取り扱っています。

【平成 29 年度 負債整理資金の貸出実績】

単位 件、百万円

資金名	平成 29 年度 実行件数	平成 29 年度 実行金額	平成 30 年 3 月 末残高
農業経営負担軽減支援資金	0	0	44
畜産特別資金	0	0	20
合計	0	0	64

- ・ 農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。
- ・ 畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換え資金であり、JAなどの融資機関において取り扱っています。

4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

JAバンク千葉では、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

(1) 食・農への理解促進

JAバンク千葉は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取り組んでいます。

教材「農業とわたしたちの暮らし」は、JAバンクを通じて、平成 29 年度には県下の小学校 578 校へ約 5 万 3 千冊配布され、学校の授業等において活用されています。

また、県下JAでは、食農教育などの実践活動に取り組んでおり、JAバンクは実践活動にかかる費用の一部を助成しています。

【JAバンク食農教育応援事業による活動内容】

JA名	活動名	活動内容
JAきみつ	JAきみつアグリキッズスクール	特産品である大豆「小糸在来」の栽培や豆腐作りを行い、子供たちが地域の農業を考えるきっかけを作る。
JA市原市	食農農園「キッズファーム」	お米作りや野菜作り、および収穫した農作物の料理体験を通じて、食の大切さとそれを支える農業の役割について理解深耕を図る。
JA成田市	みんなのよい食プロジェクト 稲作り体験教室 芋作り体験教室	管内の小学生を対象に、お米作りやお芋作りを体験してもらい、農業への関心を深める。
JA安房	学校給食への食材提供	管内の幼稚園、小学校および中学校の学校給食へ新米を提供し、地元食材への関心を深める。
JAいちかわ	親子料理教室	地元農産物を使い親子で協力して料理をすることで、地産地消の大切さと、丈夫な体を作るための栄養にかかる知識を身につける。
JAかとり	親子料理教室	管内の小学生とその親を対象に、伝統料理「太巻き寿司」や夏野菜を使用した料理教室を開催し、農と食への関心を深める。

以上